

第 5 次城陽市総合計画策定に向けた 市民ワークショップ（令和 7 年度）実施結果

令和 8 年 3 月

1. 開催概要

1.1. 目的

第 5 次城陽市総合計画の策定に向け、若者の日常生活の実態やまちづくりに対する意見・アイデアを募り、次期計画の方針検討に活用することを目的に、市内に居住する 10 歳代から 20 歳代の若年層を対象としたワークショップを実施した。

1.2. 名称

「私が住みたいまち」城陽市の未来を語ろう ワカモノワークショップ

1.3. 日時

第 1 回) 令和 7 年 9 月 27 日 (土) 14:00～16:30

第 2 回) 令和 7 年 10 月 19 日 (日) 14:00～16:30

1.4. 場所

城陽市立福祉センター 1 階ホール

1.5. 参加者

城陽市内に居住する 18～29 歳から、住民基本台帳を用いて無作為抽出した方に募集案内を郵送し、参加希望をいただいた市民 12 名で実施した。

なお、第 1 回と第 2 回は同じメンバー・グループでの実施を基本とした。

1.6. 議論テーマ

表 1 ワークショップでの議論テーマ

回	テーマ	内容
第1回	①わたしの幸せ	城陽市の未来について考えるためのきっかけとして、参加者一人ひとりが「幸せ」を感じることにについて議論した。
	②城陽市の良いところ・ 気になるところ	テーマ①で議論した「わたしの幸せ」を実現する観点から、城陽市の良いところや自慢・誇りに思うこと、改善が必要なところや足りないところ等について議論した。
第2回	① “もっとこうなったらいい！” まちづくりの方向性	第1回のワークショップで議論した内容を踏まえ、城陽市のこれからのまちづくりに際し、望ましいと思う方向性について議論した。
	② “住み続けたい” 未来のまちのあり方（将来像）	テーマ①で議論した、望ましいまちづくりの方向性をもとに、未来の城陽市のあり方（将来像）を示すキャッチコピーの案について議論した。

1.7. 議論の進め方

参加者を3つの班に分け、ファシリテーター（事務局）の進行のもと議論を行った。

第1回、および第2回のテーマ①では、テーマに対する意見を個人で付箋に記入の上、班内で意見を共有した後、類似する意見をグルーピングしながら意見の深掘りを行った。

第2回のテーマ②では、参加者が事前に各自で検討したキャッチコピーの案を班内で共有した後、これまでのテーマでの議論内容も踏まえながら、班ごとに1～2つのキャッチコピー案を作成し、全体発表を行った。

2. 議論結果

2.1. 第1回

2.1.1. テーマ①「わたしの幸せ」

表 2 テーマ①「わたしの幸せ」に関する主な意見

自然	星がキレイに見える、自然が豊か、桜が見られる
娯楽	運動施設などがある、博物館に行く、ドライブする
エンタメ	好きな音楽ライブに行く、文化パークにアーティストが来る
交流	若者が集まる、家族や友達と一緒にいられる
お出掛け	映画・温泉・キャンプ、アウトレットパークができる
便利	奈良・京都・大阪に近い、関西圏のイベントに参加しやすい
食	美味しい物を食べる、美味しい飲食店がたくさんある
店	夜遅くまで営業しているスーパーがある、徒歩で行けるお店がたくさんある
特産品	いちじく・さつまいも・梅・お茶などの特産品を街中で見た時

2.1.2. テーマ②「城陽市の良いところ・気になるところ」

表 3 テーマ②「城陽市の良いところ・気になるところ」に関する主な意見

知名度	「京都」というブランド効果、城陽発祥の名店がある
イベント	祭・地域のイベントがある、季節ごとのイベントがある
自然	古墳などの遺跡がある、自然と便利さのバランスがいい
人	人との距離感が程よい、治安がいい、人が温かい
生活	イズミヤがなくなって不便、お金がまちに落ちない
交通	歩道の狭い所が多い、近鉄の駅に急行が止まらない
食	給食が中学校まである、いちじく・お茶・寺田芋がおいしい
将来性	発展しようとしている、未来に夢が持てる 高齢化率が高い、財政に不安、人口減少が著しい
特産品	特産品の知名度がイマイチ、特産品を販売する場所がない

2.2. 第2回

2.2.1. テーマ①「“もっとこうなったらいい！” まちづくりの方向性」

表 4 テーマ①「“もっとこうなったらいい！” まちづくりの方向性」に関する主な意見

住	親子で住み続けたいまちになる、子育てがしやすい
産業	市民が儲けるまち、企業の誘致、財政が安定している
若者	若者も含む異なる世代が交流できるまち
イベント	城陽市に特化したイベント、梅や梅まつりを市内外に広める
PR	アウトレットなど新しくなるまちということを広める 文化パーク、ロゴスランドをもっと売り出したい
仕事	産業が少ない城陽市で働く場が少ないから増えたら良い
立寄所	道の駅など立ち寄り場所が少ないから増えたら良い
交通	城陽全体を走るバスを作る、通常バスでの運行ルート
利便性	買い物の便利さを高める、住みやすさを高める
新しい 城陽の“賑”	使っていない地域の開発、起業家が集まるまち、地域の開発 駅にカフェやコンビニなどのスペース、商店街を活発に
市と市民 との“結”	市民の不満を改善、城陽市にもっと関心をもってもらう スポーツ大会・人とのつながり・競技力向上
市民と市外の 人との“結”	知名度に関して SNS を上手に活用、通販サイトで売り込み 関西の中心の好立地を活かしたい、有名人に PR してもらう

2.2.2. テーマ②「“住み続けたい” 未来のまちのあり方（将来像）」

(1) Aグループ

陽だまりで都をつなぎ人をき^城ずく未来 Enjoy 城陽

- 「陽だまり」は人の暖かさや若者・まちの活気のこと、「都をつなぎ」は交通の便が良いこと、「人をきずく（城く）」は個人の成長や人間関係を築けることを示す。
- 「城（＝きずく）」「陽（＝陽だまり）」の文字を盛り込み、これらの未来の中で、楽しめる城陽市にしたいという意味を込めた。

(2) Bグループ

いろどり
食・色 育む 人とつながる城陽市

- 「食」は梅やイチジク等といった城陽市の特産品を表しており、イベント等を通して広めて（育んで）いきたいという思いを込めた。
- 「色」は代表的な産業である金銀糸、水や緑等の自然の豊かさ、人のやさしさなどに焦点を当てている。
- 「人とつながる」は、地域外の人にも立ち寄ってもらえる場づくり、交通の要衝としての意味合いを込めた。

(3) Cグループ

①はじめましてで人・若者を結び新たな未来をつくるまち JOYO

②（自然＋人）× 笑顔＝城陽

- ①では、若者を中心に、「はじめまして」で出会った人が結びつきを深め、新たな未来を創造するとの意味を込めた。
- ②では、自然と人が互いに共存し、いろんな人の笑顔が増えていくまちにしたいとの思いを込めた。

以上